

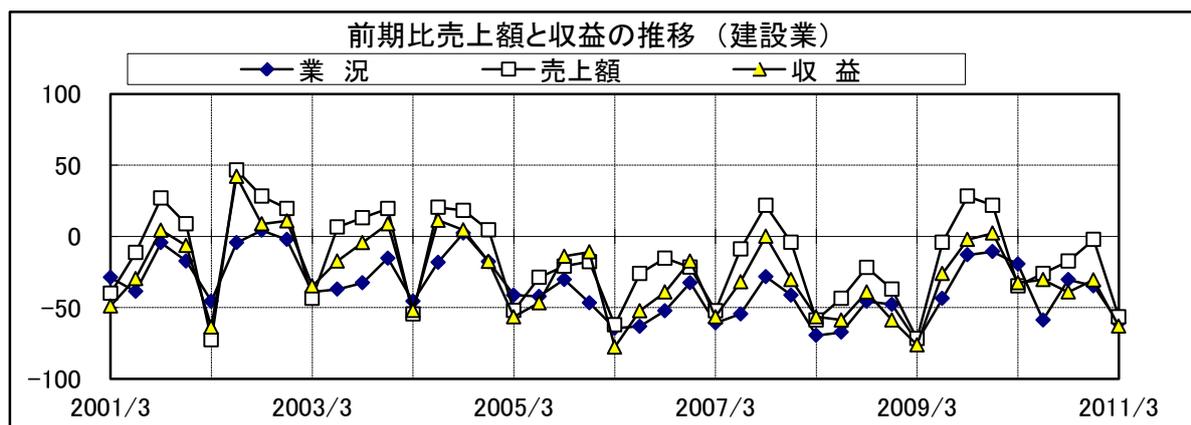
建設業 46企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
業 況	-30.4	-34.8	-60.9	-37.0
売上額	-17.5	-2.2	-56.6	-17.3
収益	-39.2	-30.5	-63.1	-28.3

今期の業況判断DIは△60.9と、前期比マイナス幅が26.1ポイント拡大し業況の下降見られる。地区別にみると、えりも、浦河、静内、広尾、三石、類似の順で値が低い。

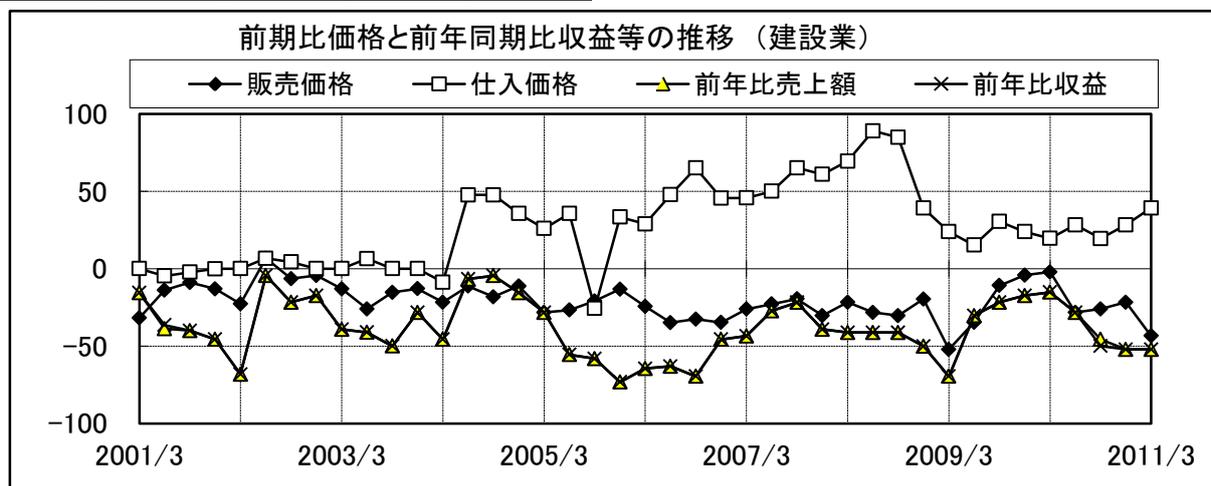
売上額、収益判断DIは、売上額が△56.6、収益が△63.1と、前期比それぞれマイナス幅が拡大し54.4、32.6ポイント低下した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
請負価格	-26.0	-21.7	-43.4	-28.2
仕入価格	19.5	28.3	39.2	39.1

請負価格判断DIは△43.4と、前期比マイナス幅が21.7ポイント拡大、価格低下基調を強めている。一方、仕入価格判断DIは39.2と、前期比プラス幅が拡大し10.9ポイント上昇、価格上昇基調を強めている。



雇用面の動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
残業時間	-10.8	-10.8	-8.6	-23.9
人手状況	4.4	-10.9	-8.6	8.7

残業時間判断DIは△8.6と、残業時間が減少したとする企業割合は前期比減少した。

人手過不足判断DIは△8.6となり、前期比2.3ポイント上昇の、人手「不足」超となっている。

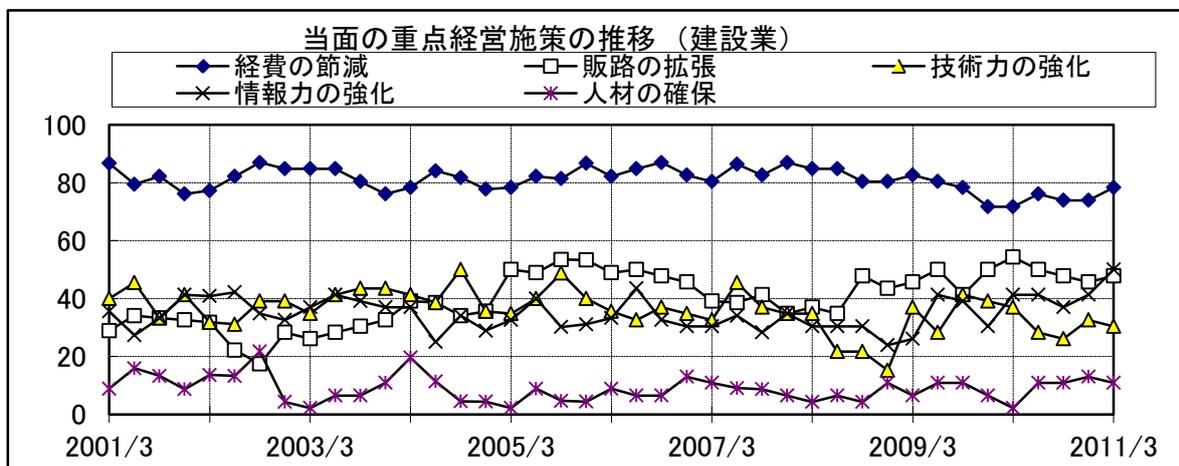
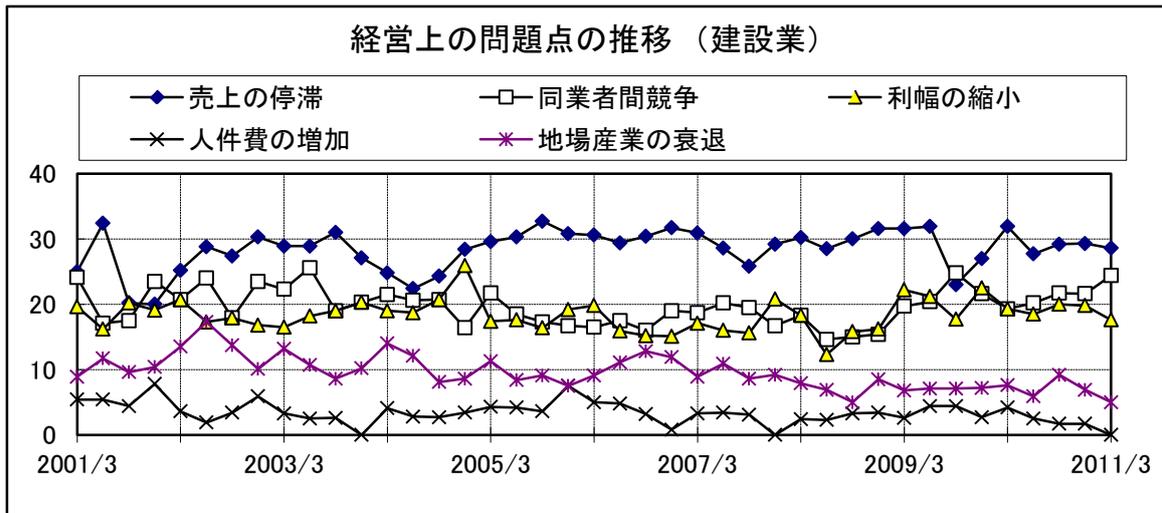
□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すDIは $\Delta 2.1$ と、前期($\Delta 4.3$)からマイナス幅が縮小、不足感が弱まった。また適正と回答した企業は76.1%と、前期(78.3%)から減少している。設備投資実施企業割合は21.7%で、前期比2.2ポイント下降、件数は前期の11社に対し10社の実施となった。また、来期予定では当期比2社減の8社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ28.6%、次いで「同業者間との競合」24.4%、「利幅の縮小」17.6、「材料価格の上昇」10.1%、「大手企業との競合」5.9%の順に続く。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ78.3%、次いで「情報力を強化する」50.0%、「販路を広げる」47.8%、「技術力を高める」30.4%の順となっている。



□ 来期の見通し

来期(平成23年1~3月期)の予想業況判断DIは $\Delta 37.0$ と、今期($\Delta 60.9$)実績比23.9ポイントの改善見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断DIは、売上額が $\Delta 17.3$ (今期 $\Delta 56.6$)、収益が $\Delta 28.3$ (今期 $\Delta 63.1$)と、それぞれマイナス幅が縮小し39.3、34.8ポイントの改善見通しとなっている。

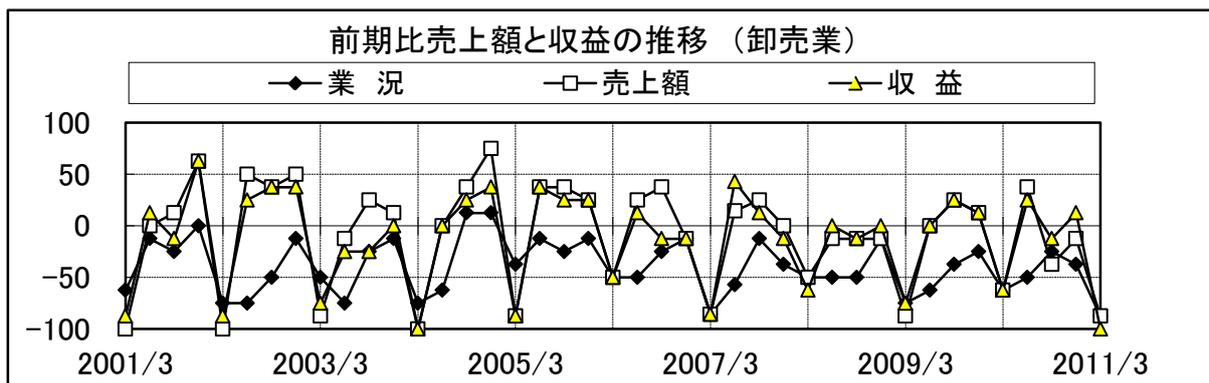
予想請負、予想仕入価格判断DIは、請負価格が $\Delta 28.2$ (今期 $\Delta 43.4$)と、マイナス値が15.2ポイント縮小し、価格低下基調が弱まる。材料価格は39.1(今期39.2)と、ほぼ横ばいの見通しとなっている。

卸売業 8企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 景況

DI 値の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
業況	-25.0	-37.5	-87.5	-25.0
売上額	-37.5	-12.5	-87.5	-12.5
収益	-12.5	12.5	-100.0	-12.5

今期の業況判断DIは△87.5と、前期比マイナス幅が50.0ポイント拡大し悪化している。地区別にみると、全地区で悪化となっている。売上額DIは、前期比マイナス幅が拡大し75.0ポイント下落。収益DIはプラス値からマイナス値に転じ112.5ポイント下落した。

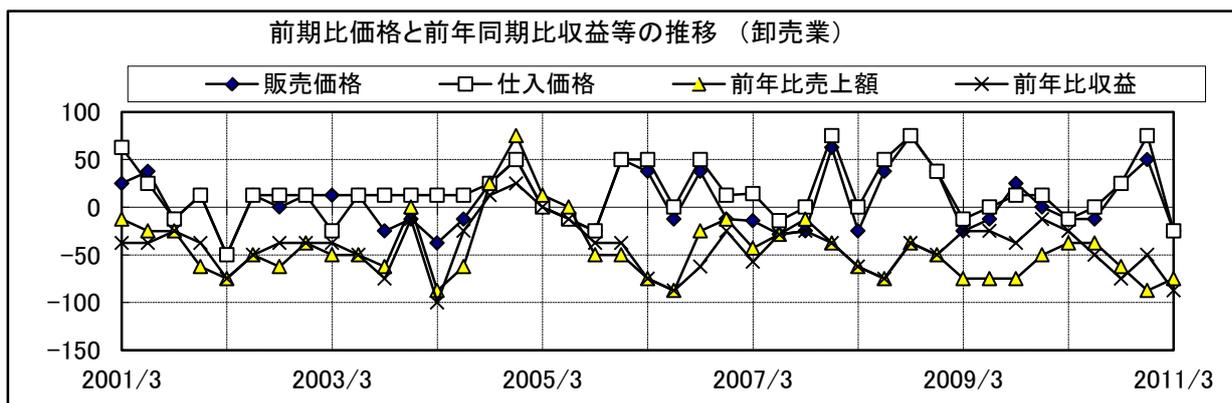


□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
販売価格	25.0	50.0	-25.0	-12.5
仕入価格	25.0	75.0	-25.0	0.0

販売価格判断DI(△25.0)は、プラスからマイナス値に転じ、75.0ポイント下落。価格低下基調となった。仕入価格判断DI値(△25.0)は、前期比プラスからマイナス値に転じ、100.0ポイント下落、価格低下基調となった。業種別にみると、水産は販売価格・仕入

価格が低下基調。食品では販売価格が横ばい、仕入価格は上昇基調が止まる動きとなっている。



□ 雇用面の動き

DI 値の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
残業時間	-25.0	0.0	-12.5	0.0
人手状況	25.0	12.5	37.5	12.5

残業時間判断DIは△12.5と前期比(0.0)残業時間が減少したとする企業割合が増加した。

人手過不足判断DIは37.5と、前期(12.5)比25.0ポイント増加、人手過剰感を強めている。

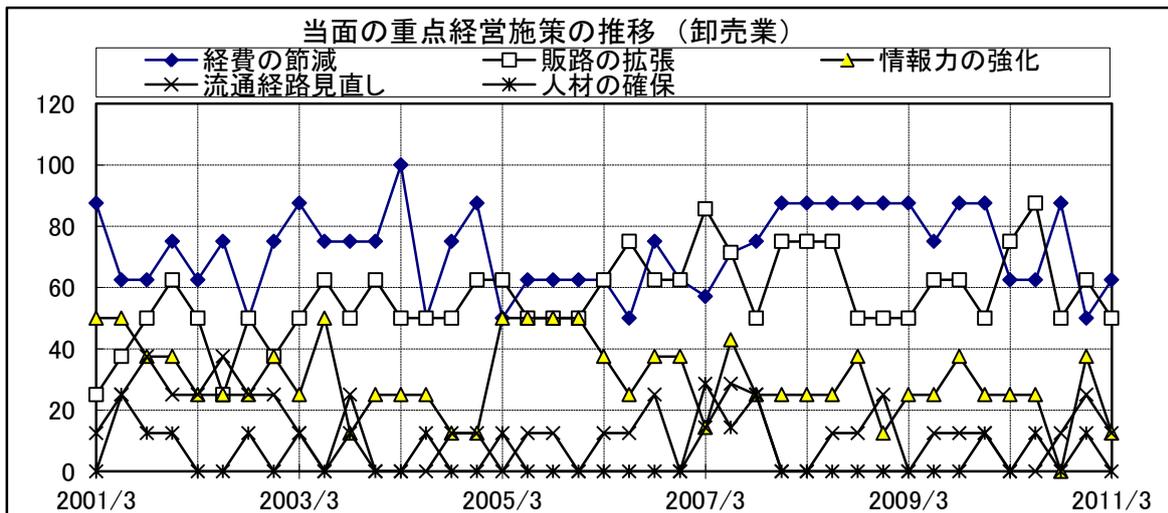
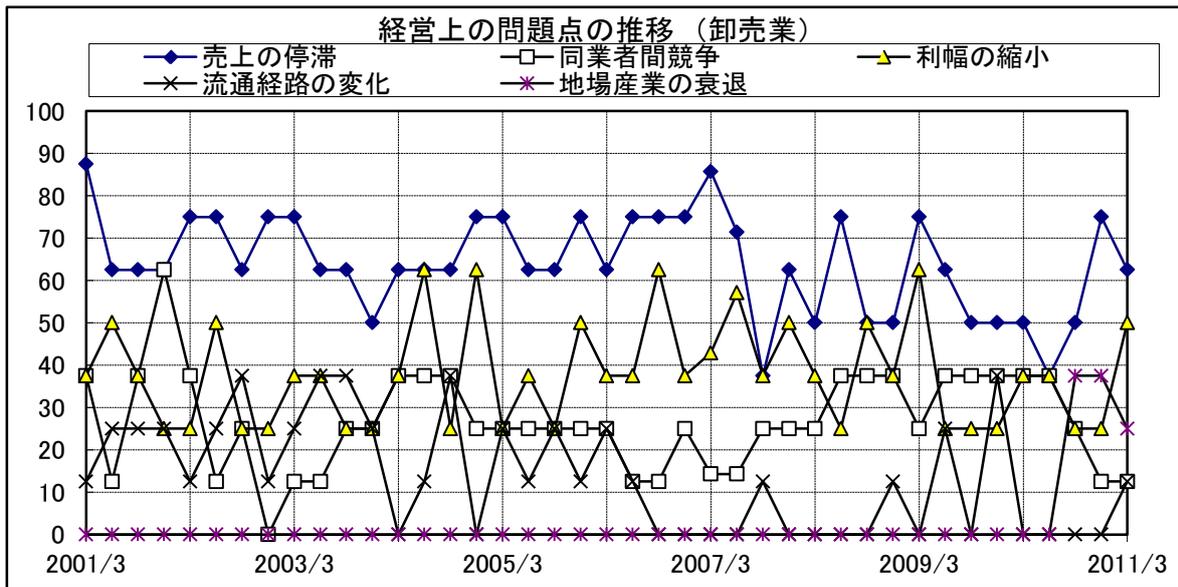
□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD Iは 12.5 と、前期 (0.0) に比べ上昇している。また現在の設備状況が、適正と回答した企業割合(前期 100.0%)は、前期比マイナス 12.5%の 87.5%となっている。設備投資実施企業割合は 12.5%と前期比横ばい、また来期の投資予定は 1社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」62.5%をトップに挙げ、次いで「利幅の縮小」50.0%、「取引先の減少」37.5%、「人件費の増加」25.0%、「地場産業の衰退」25.0%の順に続く。

重点経営施策では、「経費の節減」62.5%をトップに挙げ、次に「販路を広げる」50.0%、「教育訓練の強化」25.0%の順となっている。この後には「品揃えの強化」、「情報力の強化」、「パート化を図る」、「流通経路を見直す」、「不動産の有効活用」がいずれも 12.5%で続いている。



□ 来期の見通し

来期 (平成 23 年 4~6 月期) の予想業況判断D Iは $\Delta 25.0$ と、今期 ($\Delta 87.5$) 実績比 62.5 ポイントの改善見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D Iは、売上額が $\Delta 12.5$ (今期 $\Delta 87.5$) とマイナス値が 75.0 ポイント縮小、価格下落基調を弱めている。収益は $\Delta 12.5$ (今期 $\Delta 100.0$) で、87.5 ポイントの改善見通しとなっている。予想販売、予想仕入価格判断D Iは、販売価格が $\Delta 12.5$ (今期 $\Delta 25.0$) とマイナス幅が 12.5 ポイント縮小、価格下落基調を弱めている。一方、仕入価格は 0.0 (今期 25.0) と、プラスからゼロ値に転じ上昇基調が止まる見通し。